



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校だより

2月号 令和8年2月2日

大自然の中で

校長 福田 博志

今月の県公立高校の入試を控えた3年生は、感染症には十分気をつけて万全の体調で受検できるようにしましょう。

先日、2年生と「館岩自然の教室」に行ってきました。自然の教室は、五感を働かせた体験活動を通じて、「知る」ことだけではなく「感じる」大切さを学ぶ教育だと私は思います。多くの皆さんは、小学校5年生で夏の館岩を体験したことと思います。緑に囲まれた生命力あふれる夏の館岩は、小学校時代の心に残る思い出の一つとなっていることと思います。



私は、かつて「館岩少年自然の家」の所員として4年間務めました。夏は、登山やキャンプファイヤー、焼板づくりやイワナの塩焼きのサポート、冬はスキー実習を中心とする学校対応の仕事をさせていただきました。そこで、一定の法則に気付いたのです。それは、さいたま市の小中学生が自然の家に来ると、なぜかみんなの表情が明るくなり、生き生きとした楽しそうな姿をいつも見ることができたのです。やはり、大自然は心を開いて、感性を豊かにして生きる力を身につけてくれるものだ実感したものでした。

私自身も館岩の環境から多くのことを学びました。大自然の素晴らしさもそうですが、冬は、積雪150センチの雪と氷に閉ざされた世界です。積もった雪のため除雪しなければ、家の外に出られなくなってしまいます。そのために誰かが除雪機を動かし、道路の雪を掃く作業を早朝から氷点下の中、行わなければなりません。

あと一つ、この時期に部屋に招かざる客が出現します。その名はカメムシ。所員となった最初の冬にカメムシの洗礼を受けました。暖かい所に潜り込むその昆虫の習性から、冬のある日、お茶を急須で注いで飲んだところ、青臭い苦いような強烈なヘンな味がしました。その急須のフタを取って中をのぞいてみると、あろうことか、カメムシが浮いているではありませんか！その後どんなにうがいをしてもしばらくの間、口の中はカメムシの香りで充満していました。そうした過酷なニガイ体験を通して、大自然の摂理をより敏感に感じるようになるようになったのだと思います。

今回初めてスキーをした人もいるでしょう。はじめは、立つことさえ難しかったが、リフトに乗って、斜面を滑り降りて来られるようになった経験をした人は、少しの勇気で大きな感動を覚えたことでしょう。ぜひ、この経験を未来の自分に活かしてもらいたいと願っています。大自然の中で、試行錯誤、悪戦苦闘しながら活動した体験は、きっと、みなさんの生きるベースに繋がると思います。